



# 『生きる力』の育成

## 未来を拓く県北の教育

### 『豊かな人間性・社会性の育成』

- ◎ 自他のよさがわかる心豊かな人づくり
  - 積極的な生徒指導による自己決定の場や自己存在感を味わわせる場の設定
  - 自己の生き方についての考えを深めさせる心に響く道徳の授業づくり
  - 集団の一員としての自覚を深めさせる特別活動の指導の工夫
- ◎ 自他のよさを認め合う人間関係づくり
  - 多様な感じ方や考え方によって学び合わせることができる道徳の指導の工夫
  - 大人や異年齢の子どもたちとの交流や体験活動、学校間や異校種間の交流
- ◎ 一人一人のよさを伸ばす機能する指導体制づくり
  - 教育相談の充実と心のケアのための支援
  - 問題行動等の早期発見、早期対応、早期解決のための組織的な取り組み
  - 不登校解消やいじめ根絶のための組織的な実効ある取り組み
  - 問題行動の未然防止に向けた家庭や地域、近隣校、関係機関との連携

### 学級・学習集団づくり

- 一人一人の特性を踏まえ、個を大切にできる学級経営
- 互いを尊重し合い、認め合う支持的風土の醸成
- 『聴く』『話す』を重視した学び合う集団の育成
- 自主性、自立性を育む教育活動の展開
- 家庭や地域、幼小中高などの連携に基づく効果的な支援

### 『幼稚園教育の充実』

- ◎ 学びの連続性を踏まえた幼小の連携づくり
  - 幼小の教育内容や指導の在り方等についての共通理解
  - 幼小が抱える課題を共有し、接続を見通した教育課程の編成
- ◎ 発達の道筋を見通した計画的な環境づくり
  - 幼児一人一人の行動の理解と予想に基づいた環境の構成
  - 幼児の活動に沿った計画の見直しや環境の再構成

### 『特別支援教育の充実』

- ◎ 全教職員の連携協力による校(園)内支援体制づくり
  - 特別支援教育コーディネーターを中心とした研修会やケース会議の実施
- ◎ 集団の中でのよりよい友達関係づくり
  - 教師が仲立ちとなり、よりよい友達との関わりをつくるための支援の工夫
  - 組織的、計画的、継続的な交流及び共同学習の推進
- ◎ 一人一人のニーズに応じた指導体制づくり
  - 子どもの特性の把握に基づく指導のねらいや方針の明確化
  - 「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」の作成・活用
- ◎ 家庭、地域及び関係機関との連携づくり
  - 研修会等による家庭や地域への特別支援教育に対する継続した啓発
  - 保健福祉等関係機関との連携や特別支援学校のセンター的機能の活用

### 第6次福島県総合教育計画

- 基本理念 “ふくしまの和” で奏でる、こころ豊かなたくましい人づくり
- 基本目標
  - 知・徳・体のバランスのとれた社会に貢献する自立した人間の育成
  - 学校、家庭、地域が一体となった教育の実現
  - 豊かな教育環境の形成

### 福島県復興計画重点プロジェクト

- 『未来を担う子ども・若者育成プロジェクト』  
～ふくしまならではの教育を目指して～
- プロジェクト主要事業
- 学力向上の推進
  - 理数教育の充実
  - 道徳教育の推進
  - 体力向上の推進
  - 防災教育の充実
- 等

### 『健やかな体の育成』

- ◎ 生涯にわたって健康を支える体力づくり
  - 動きの質を高める体育・保健体育の授業の充実
    - 自校化を図った運動身体づくりプログラムの継続と定着(小)
    - 運動の習慣化につながる「体づくり」運動の工夫
    - 基礎的な身体能力が身に付く指導の推進
    - 実質的な運動の時間の確保
  - 自主的に運動に取り組む場や機会の工夫
  - 体を動かす遊びの推奨
- ◎ 健康で安全な生活の実践をめざす習慣づくり
  - 健康に関する知識を身に付け、自ら実践する力の育成を図る指導の推進
  - 家庭との連携による基本的な生活習慣の確立
  - 身の回りの危険を予測し、回避する能力を育む指導の推進
  - 家庭、地域と一丸となった交通安全指導の徹底
  - 東日本大震災の経験を踏まえた防災教育、放射線教育の推進



### 家庭や地域社会との連携

- ◎ 望ましい生活習慣、学習習慣の確立を図る。
  - 具体的方策についての共通理解・実践
  - 家庭学習の仕方等についての周知
- ◎ 家庭や地域社会の教育力を生かして、教育活動の充実を図る。
  - 地域の教育力を活用した教科、道徳、総合的な学習の時間等の実施
  - 家庭、地域との協力による学校安全体制の強化

県北教育事務所では、子どもたちが「生きる力」を身に付けて、東日本大震災後のこの厳しい状況乗り越え、福島県の明日を担っていくことができるような教育を進めていくことが大切であると考えています。そこで、今年度は知・徳・体のバランスがとれ、優しくもたくましく未来を拓いていく子どもたちを育むことを目標にしました。

また、昨年度までの重点「学び合い」では学力の向上に一定の成果がありました。その効果を生かしながら、今年度は「生きる力」を育む基盤としての「学級・学習集団づくり」を重視して、教育活動の展開を推進していきます。

### 『確かな学力の向上』

- ◎ 互いに学び合う充実した授業づくり
  - 実態と目標を踏まえた指導構想
  - 意図的な習得、活用、探究の取組み
  - 学びがいのある学習課題の設定
  - 自分の考えをもたせる場の工夫
  - 効果的な「学び合い」による「思考の共有と吟味」
  - 学習内容を確実に身に付けさせる評価の工夫とまとめの充実
- ◎ 学びを支える学習基盤づくり
  - 発達段階に応じた「学び方」「学習訓練／習慣」の確立
    - 学習の構え
    - 学習態度
    - 学習技能（ノートづくり、調べ学習の方法等）
    - 素地としての生活習慣
  - 学びの習慣を育てる「授業」「家庭学習」「朝の学習等」の学習サイクルの確立
  - 読書活動の推進
- ◎ 教師の力量を高めるための体制づくり
  - 子どもの学びの姿に即した、実効ある校内研修の活性化
  - 校内外の各種研修会等における研修成果の共通理解・共通実践



### 関係機関等との連携

- ◎ 関係機関の機能を理解し、効果的な活用を図る。
  - 関係機関の具体的な把握
  - 学校課題の解決につながる関係機関との連携を図る管理職等のコーディネート
- ◎ 各校種の実態、教育内容の理解に基づいて指導方法の改善を図る。
  - 連携のための時間、場所等の確保
  - 情報の共有と共通実践